



北限のサル、カモシカなど自然観察に適した宿。

### 脇野沢ユースホステル

青森県の下北地域、むつ市脇野沢に位置するユースホステル。JR大湊線大湊駅からJRバス東北「脇野沢庁舎前」行きに乗り約1時間、脇野沢停留所から徒歩10分ほど。車の場合は、下北半島縦貫道路・横浜吹越(ふっこし)ICから約1時間45分。冬季・夏季は休館。



〒039-5332 青森県むつ市脇野沢瀬野川目41  
☎0175-44-2341 <https://jyh.jp/info.php?jyhno=1102>



かつてはユースホステルのシンボリックな存在だった「赤い三角屋根」。往年のユースホステルファンの中には、懐かしい旅の記憶が蘇る人も少なくないのではないか。



館内に入ると、木の温もりと間接照明に包まれた優しい空間が広がる。ロードバイクを館内に保管できるのもうれしい。



お話を伺った、マネージャーの磯山隆幸さん(左)と妻のりょう子さん(右)。

## Youth Hostel Pick up

# 自然を歩き、野生動物と向き合う 「青い森」に親しむユースホステル

## 脇野沢ユースホステル

### 「北限のサル」が息づく 本州最北端のユースホステル

本州最北端に位置し「まさかり」にも形容される青森県の下北半島。太平洋、津軽海峡、それに陸奥(むつ)湾という、性質の異なる海に囲まれていることから、悠久の時を経て多様な地形が生み出されてきた。広大なカルデラに宇曾利山(うそりやま)湖が水をたたえる恐山(おそれざん)山地、押し固められた火山灰を雨や波が削った奇岩が連なる仏ヶ浦(ほとけがうら)、浸食によって形成されたさまざまな河底・河岸の表情が美しい薬研(やげん)渓流一。神秘すら感じさせる複雑で雄大な自然が残され、多くが下北半島国定公園に指定されている。こうした豊かな自然の中で暮らすのが、希少な野生動物たち。

キツネやノウサギ、テンなどのほか、国の特別天然記念物・ニホンカモシカなどの哺乳類が生息している。とりわけ、むつ市脇野沢地区周辺のニホンザルは「北限のサル」の異名を取り、国の天然記念物に指定されている。ここはニホンザル分布の北限であると同時に、世界的に見てもヒト以外の霊長類が自然分布している最北限なのだ。今回は、その脇野沢地区にある、赤い三角屋根がトレードマークの「脇野沢ユースホステル」を訪れた。お話を伺ったのは、約40年にわたって下北半島のサルやカモシカの生態と向き合ってきた、動物写真家としての一面も持つマネージャー・磯山隆幸(いそやま・たかゆき)さん。自然や野生動物との共生に対する視点や、ゆとりを持って自然を観察できる宿の魅力について語っていただいた。

### 全国を放浪した青春時代 旅の途中で行き着いた「自然と親しむ館」

三重県津市で生まれた磯山さんは、旅への憧れを抱きながら青春時代を過ごした。「温暖な気候で、文化的にも経済的にも恵まれているからか、三重の人はあまり旅をしないんです。地元を離れたことがなかったからこそ、旅をしたいという思いが湧き上がり、何度も『放浪の旅』に出ました」最初の旅は、紀伊半島を自転車で8日間かけて一周。奄美群島の与論島に向いて本土返還前の沖縄を望んだり、札幌から津まで自転車で走ったこともあった。下北半島での旅の途中、脇野沢ユースホステルに偶然宿泊したのは20歳の頃。野生動物との

共生の道を探ることをライフワークとしていた先代の高橋金三さんが「自然と親しむ館」として開設して間もない宿だった。「その頃の脇野沢ユースホステルは、親父さん(高橋さん)が学生と生態調査を行う拠点でもありました。夜のミーティングはサルとカモシカの話。親父さんと学生たちが熱く議論していましたよ」そこから、脇野沢に通うようになった磯山さん。高橋さんの娘のりょう子さんと結ばれてからは、2人でふるさとの津に居を構えた。もともと画家を志していたこともあり、旅を通して写真の世界に足を踏み入れたことがきっかけで、地元の写真館に勤務。結婚式や修学旅行などの商業写真と並行して芸術写真を手がけ、写真家としての腕を磨いた。

## 40歳を前に移住して宿を継承 撮影を通して野生動物と向き合う日々

転機となったのは、40歳を目前にした1987年。高齢となった高橋さんからユースホステルの経営を引き継ごうと、夫婦で脇野沢へ移住した。サル・カモシカの調査活動も高橋さんから受け継いだ磯山さんは、野生動物の姿を撮影するようになった。ファインダーを通して彼らを見守るうちに、わかったことがあったという。

「昔は食害の問題もあって、カモシカを被告にした『カモシカ裁判』が行われたことさえあります。でも、野生動物の写真を撮り続けて『彼らには彼らなりの事情がある。森の姿を変えたのは人間のほうで、動物が悪いことをしているわけじゃない』という思いを強くしました。彼らと、自然の中で生きる動物のつらさを共有しているから、憎むことはできないんです」

自転車を駆って全国各地を走り、自らの脚で旅を続け、自然の中に身を置いてきた磯山さんだからこそ得られた「森と人間の間にいる動物」へのまなざしだ。

「野生動物にとってこの集落は生活域ですから、玄関先でカモシカに出会うことだってあります。だけど、ペットのように彼らを捉えていてはお互い不幸になる。『野生動物の横に、人間が住んでいる』という感覚で接しています」

同志のような存在であるサル・カモシカを撮り続けてきた磯山さん。写真展は10回を数え、2013年にはりょう子さんと共著『北限のサル 世界の一番北でくらすサルの物語～青森県・下北半島から～』(朝日学生新聞社)を上梓した。写真に映る野生動物たちは皆、どこか安心したような、やわらかな表情をしているように見える。



©いそやまたかゆき

動物写真家としてのデビュー作とも言える、磯山さんの代表作『姉と弟』。顔をみただけで個体を識別できる」という磯山さんだから撮れた、一枚。



北限に暮らすサルやニホンカモシカとの共存する日々を綴った連載が『世界の一番北でくらすサルの物語』(朝日学生新聞社)として出版された。



落ち着いた雰囲気のダイニングには、磯山さんが撮影した作品が並ぶ。



磯山さんが「普通の家庭料理ですが」と出してくれたある日の夕食は、旅先で出会う「いまだけ、ここだけ」のごちそうだった。

## ゆとりある滞在空間を拠点に、 自分の足で森を歩き、発見する旅を

今年で開業60年を迎えた脇野沢ユースホステルは、簡素であることを徹底しつつ、ゆっくり休めるゆとりある空間を目指した宿だ。定員は5名。隅々まで手入れされた館内は木の温もりにあふれ、間接照明を採用した寝室でぐっすり眠れる。食事は夕朝食の2食を提供。海産物を中心に、できるだけ地元の食材を使った手作りの料理は好評を博している。

「ユースホステルの役割は、最低限、安心して宿泊できる場所を提供すること。日常ではない、異次元の空間を訪れて自然を楽しむ一人旅に向いている宿です」

それぞれの旅の在り方を尊重するからこそ、適度な距離感を意識して宿泊者と接しているという磯山さん。自然と人との間に立つファシリテーターとして、さまざまな情報を提供しているが、ガイドをすることはしない。

「私が一緒に行ってみてしまったら(誰かに見せてもらうことが)当たり前になってしまう。自分で森を歩いて、苦労して発見することが大事なんです」

磯山さんのおすすめは、時間のゆとりを持っての滞在。下北半島をゆっくりと歩き、人の手が入っていない日本の原風景を味わって、癒しを得てほしいと語る。

「脇野沢の人たちもこの宿のことはよく知っているし、当たり前のように旅人をもてなしてくれます。これからも『旅人の視点』を大切に、訪れる人それぞれの旅のお手伝いをしていきたいですね」

### A 大間崎



津軽海峡を望む本州最北端の地・大間崎(おおまざき)。対岸の北海道函館市・汐首岬(しおくびみさき)までの距離は約17kmで、条件がそろえば「五稜郭タワー」が見えることも。

大間町大字大間平17-1

### B 仏ヶ浦



仏ヶ浦には、高さ100m近い巨岩や奇岩が約2kmにわたって連なり、国の天然記念物にもなっている。それぞれに仏の名がついた岩が織りなす神秘的な景観は、まさに圧巻だ。

佐井村長後継道石国有林地内

### C 愛宕山公園



脇野沢港の小高い丘にある愛宕山(あたごやま)公園は、沖合の鯛島(たいじま)も見えるビュースポット。桜やヤマツツジの名所としても知られる、ほっと一息つける場所だ。

むつ市脇野沢瀬野川目1-1



「下北半島ってこんなところ!」  
むつ市と、大間町や佐井村など下北郡の各町村で構成される下北地方。古くから海運によって栄え、江戸時代には北前船で大坂(大阪)と結ばれていたため、上方のさまざまな文化がもたらされた。また、唯一無二の貴重な大自然が残されており、半島全体が下北半島国定公園に指定されている。このページでは、脇野沢ユースホステルを拠点に訪れたい、下北半島のネイチャースポットを紹介。数日間滞在して、ぜひ自分の脚で歩いてみよう。

## 下北半島おすすめSPOT

### D 川内川渓谷



陸奥湾に注ぐ川内川(かわうちがわ)渓谷では、夏は森林浴、秋は紅葉を楽しめる。川沿いに遊歩道も整備されており、せせらぎと鳥たちのさえずりを聞きながらゆっくり歩ける。

むつ市川内町獅子畑128-1(川内川渓谷遊歩道)

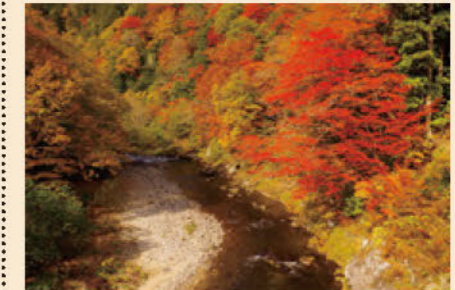
### E 恐山・宇曽利山湖周辺



霊場として知られる恐山は、釜臥山(かまふせやま)をはじめとした山々の総称。宇曽利山湖周辺は、地面からガスや湯気が立ち、現在も続く火山活動の一端を目の当たりにできる。

むつ市田名部宇曽利山

### F 薬研渓流



大畑川(おおはたがわ)流域の薬研渓流は、美しい河底・河岸で知られる。約6kmほどの遊歩道を歩いて、ヒバやカエデ、ブナといった木々が形成する豊かな森に身を任せよう。

むつ市大畑町薬研



抽選で書籍『世界の一番北でくらすサルの物語』を3名様にプレゼント!

※応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申し込みフォームから!

<https://jyh.jp/hm>

応募〆切:2025年8月末日



※当選者にはこの書籍にご依頼いただいたメールアドレス宛に連絡いたします。  
@jyh.jpからのメールが受信できるように設定をお願いいたします。